【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立若葉小学校

1　前年度 評価結果の概要	・「自立した学習者」を目指して、１人１台端末を活用した授業改善を進め、授業改善につながった。　・いじめの認知件数が増えた。アンケートや研修を実施し，いじめが起こりにくい集団づくりに継続して取り組み、いじめの早期発見、早期対応、再発防止を心がけ、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。　・児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行うため、児童が活躍できる場や機会を増やしていく。また、家庭・地域にも連携を働きかけることで多方面からも承認・称賛を行い、児童の自己肯定感を高めていく。　・一層の特別支援教育の充実が必要。そのために保護者の願いに寄り添い、一人一人の教育的なニーズに応じた指導・支援を行っていく。 ・学校の様々な課題の解決に向けて、コミュニティスクールにおいて学校・家庭・地域が連携した取組を行う必要がある。
2　学校教育目標	「美しい心をもち　自分から学び　やりぬく子」の育成 ～　元気いっぱい　笑顔かがやく　若葉っ子　～
3　本年度の重点目標	①　心の教育（道徳、人権・同和教育、学級活動、インクルーシブ教育）による豊かな心の育成 ②　若葉授業と家庭学習習慣の定着による確かな学力の積み上げ ③　誰もが安心して過ごせる環境づくり ④　コミュニティ・スクールの充実

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による授業力向上に向けた若葉授業等の共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師90%以上を目指す。	・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして、全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・主体的・多面的に学ぶ力を伸ばすために、各教科の授業の中で児童相互に主体的・対話的に関わりあう「友達タイム」を活用する。 ・家庭学習習慣定着のための啓発、家庭学習推進デーの設定を行い、自ら学習に向かう児童の育成を目指す。 ・校内研究で授業UDや一人一台端末活用の視点に基づいた学習環境・授業づくりを目指す。		・		・		・	・学力向上対策コーディネーター（松尾） ・研究主任（森田・小野）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 ○相手が嬉しい、心地良いと感じる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。	・道徳の授業の終末に振り返りを行い、実践につなげる。 ・「ほめほめカード」」や「がんばったねカード」に自他の良さを見つけ承認、称賛する。学校内だけでなく、地域や家庭にも参加してもらう。 ・「ふわふわ言葉」を学期毎にクラスで考え、目に触れるところに掲示することで、意識して使っていくようにさせる。		・		・		・	道徳教育推進教師 （林・尊田）
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめは絶対に許さないという児童の意識、いじめが起こりにくい集団づくりに取り組み、教職員アンケート、保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であてはまると答えた割合が90%以上	・Q-Uを実施し、その結果をよりよい集団づくりを意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ・いのちを考える日」に、児童は毎月、保護者は学期毎にアンケートを行い、個人の悩みやいじめの早期発見・対応を学校全体で取り組む。		・		・		・	生徒指導 （諫山・末安）
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する教材を周知する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標の実現に向けて計画的に取り組む。		・		・		・	人権・同和教育担当者 （直塚・緒方・中村）
●健康・体つくり	○「望ましい生活習慣の形成」	○自分から進んであいさつをしている児童の割合80%以上を目指す。	・１年間の生活目標を「あいさつにあふれ、落ち着きのある学校にしよう」とし、「合言葉」の「あかるく・いつでも・さきに・つづけて」の周知・徹底を図る。 ・あいさつについて学期ごとの具体的な目標を示す。 ・児童会を中心とした朝のあいさつ運動を展開する。 ・年に2回生活点検を行い、生活習慣の見直しを行う。		・		・		・	健やかな育ち部 （諫山・城野）
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日を定時退勤日とし、それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。 ・教務と連携し、長期休業中の行事や研修会の精選、集中的に行う期間を設ける。		・		・		・	管理職（教頭）
	○保護者、職員間の配布物の見直し	○学年通信を廃止し、必要な情報は学校便りやすぐーるで配信する。 ○PCの掲示板利用を昨年度を上回る。	・学年通信廃止 ・すぐーるの積極的な活用 ・掲示板や事務ポータルの活用		・		・		・	管理職（教頭）
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、SCやSSWや放課後デイサービス等の関係者間での情報共有を行う。 ・毎月ひまわり部会を実施する。		・		・		・	特別支援教育コーディネーター（有馬・緒方・城戸）

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○教科「日本語」の充実	○教科「日本語」の実践充実	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ・保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・保護者や地域の方々の理解を図るために、全学級で年間を通して1回以上、授業参観等を実践する。 ・教科「日本語」の学習内容等を学級通信等で知らせる。		・		・		・	日本語（小野・末安）
○インクルーシブ教育	○インクルーシブ教育の推進と個々のニーズに応じた合理的配慮の充実	○生活集会や学年集会などで、年2回程度、インクルーシブ教育についての話をする。	・教室環境、ユニバーサルデザインの授業作り、教育委員会指導主事によるインクルーシブ教育研修会の実施		・		・		・	特別支援教育コーディネーター（有馬・緒方・城戸） 教務（松尾）

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志と誇りを高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・